

多賀さまと云ふ寿命延命の神さまがあるので、先日桃ちやんと行つて、あなたの延命寿命を祈つて来ました。

鉄工聯でも半分片端みだつた¹と云ふ需品課の青年が応召した相です。本人は目下病氣療養中でもあるし、帰されるものと思つてゐる様だが、はたの者は周イの情勢から押して、まづ帰れぬだらうと云つてゐる相です。森ちやんの話でも菊池さんも必ずとられる、と云つてゐました。今からせいぜい神信心して武運長久をおがんでおきませう。

お父さんはとう／＼ロイド・ジョージの世界大戦メモリアム(メモリアム)を読んでしまひました。此度は、人類学・先史学講座と、人種学的に見たる民族發達史にとりかかつて、しきりとよろこんで居ります。お父さんは割合と知識慾がおとろへないです。

先日送つたお豆はどう云ふ様にして食べました？ さつと洗つて、鉄鍋でいつて塩味又はおショウユで味をつけても、割合においしいです。もう暫くしたら、又、あれ位送つてさしあげます。其の時一諸（一諸）に椎茸五、六個、コイヤ豆腐少し位送れると思ひます。

野菜は其のうち、キウリ・茄子・玉葱が買へるでせう。又、此の頃の廻覧事項で、野菜物の輸送禁止が来ましたから、小包みで衣類とか薬とかで送るのですから、極く少量しか送れないと思ひます。

西大久保へも何か送り度いと思つてますが、茄子・キウリが出だしたら送りませう。

近日、一寸来ませんか。証明書は疎解（疎解）した家族に病人が出来たとでも、何とでもなるでせう。アララギ峠に行つてみ様ではありませんか。お父さんももう一度是非ゆきたいと云つてゐます。利□さんの徴検はどうでしたか。

※手紙文の内容からは、これを認めた月日を特定できない。しかし六月一八日の消印を付した幸子から謙一あて空封筒があり、同手紙文はこれに封入されていたものと思われる。

謙一から幸子あて（一九四四年六月二〇日の記）

僕の腹もなほつて、今夜は久しぶりにいろ／＼と食べました。利ちやんが今朝帰京の予定で、とつてあつた昼食分（丼一杯）が、夜まで帰らない為に浮いて来て、二人は丼に大山盛りの大豆入り飯、おかずはひろちやんの家から送つて来たばかりのおいしい大根みそ漬、僕がビールとかへて来たホッケだららの煮つけ、更に今日常盤橋の調査会長室へ小此

木君との定期会合の所へ電話がかかつて朝ちゃんがわざわざ届けてくれたタケの子の煮つけ弁当箱一杯、カブラとねぎのミソ汁、大根おろし（何れもひろちゃんの手料理）、そこへ夕方配給になったサメの煮つけ、之だけが卓上せましと並びました。それがすんでお茶を入れてゐる所へあつし君がやつて来て、マッチとおはぎのでかいのを二人に二つづつ持つて来てくれました。法事のお相バンです。久しぶりの甘味でした。

野菜は経堂でたつぷり買へますから、本当に御心配なく。豆類とかコーヤ豆腐などはいくらあつても大丈夫ですが、野菜はありすぎると始末に困ります。朝ちゃん達のために買っておいたねぎは、警戒警報でこの日曜に彼女達が来なかつたために大分痛んで、二人でワン／＼食つてゐるのですが、まだ中々征服出来ません。大根も朝夕大根オロシにしてゐます。その他ひろちゃん所からメリケン粉、新じゃが、わけぎ、サヤえん豆、ゴボウなどが来て、何から平げて行かうかと迷ふほどなんです。こちらから送つてあげたいくらい。

今日写真が出来て来ましたから、明日銀座で箸バコと千代紙箱とを買つて一緒に送りませう。

来月の十日頃に信州へ行けるかも知れません。明日から新しい原稿にかかり、今月中に独立戦争史百枚を仕上げ、来月四日には慶応大学出身者の何とか会で「米國政治と南部の問題」と云ふ演題で一時間ばかりシヤベリ、来月十日までに南北戦争の軍事的局面をでつち上げ、その間、シンス・イエスタデイのホンヤク約三百枚（前にかいてあつたもの）を芦野氏に見せ、例の本の初校をすませる予定です。その間早川君の所へも行かねばならず、竹中君が此の間中からしきりに来い来いと云つてゐるし、本探しにも行く必要ありと云つた風で、なまけ者の僕には目のまわりさうな忙しさです。所が僕は毎年、夏とか冬とか、他の人が余り仕事の出来ないと言ふ氣候に却つて精力的（？）になれるので、何とか全力を集中してみようと思つてゐます。で、それらがすめば、ちよつと一休みと云ふ形で信州へお邪魔にあがると云ふ段取りなんです。

警戒警報中は、前便に書いたやうに「白痴」と「アンナ・カレニナ」とを読み比べました。次には「虐げられし人々」と「未成年」と「父と子」「処女地」を読む予定です。何のためにさんなものを読み出したか（先月以来一ヶ月間に「カラマゾフ」「罪と罰」「悪霊」「白痴」と食いついてゐますが）と云ふと、ロシアの農奴解放の前と後とで、ロシアのインテリゲンチヤがいかなる差を持つつか、農奴解放の幻滅がロシアの文学にどんな形であらわれたか、を追求したいと云ふことと、竹中君が大分前からドストエフスキーについての僕の意見をききたがつてゐること、そして最後に経堂疎開組の英研部員に昭和八年東大英文学を出た八木氏と云ふまじめ一てつの英文学者がゐて、熱血漢で俳人で、「英語青

年」の古い(?)寄稿者で、アカデミックな教養の外に、くせも二くせもある個性の強い彼自身の教養もしつかりつけた人物、云はばともかく手ごたへのある人物なのですが、彼がドストエフスキーが好きで、たま／＼僕とドストエフスキーに関して一種の文学論争をひき起してつたこと、之等の理由によるのです。この間から昼の時間とか帰りの時間、大いに討論をかはして熱をあげ、腹痛や熱(病的)のあつた日もわざ／＼出て行つたのは、その討論をつづけたかつたせいもある程でしたが、結局、彼も、僕のドストエフスキー評価を正しいものと承服するに到つて、今や一種の快い勝利感(決してケチな自意識でなく)を得つつあると云ふ状態なのです。僕も、この問題を通じて、芸術のシェクスピア的方法とシラー的方法、リアリスト的な方法と観念的な方法、芸術家の歴史理解の問題等々に自分でも掘り下げ、はつきりさせることの出来た収穫をもちました。その中貴女にも書いてみませう。八木氏は自分の友人に僕を紹介しましたが、僕の話を書くときと歴史と云ふものが実に面白さうだと人々が云つてくれるのですが、では僕の書いたものはどうかとなるとその点甚だ不安です。第一、まづ読ませるだけの力なり魅力なりを持たねばならないが、その点頗る自信がない。妻たる君にさへ中々読んで貰へないのだから。今度初校が終れば原稿を今井先生に見せて序文を貰ひますが、そのあと君の所へ郵送しますから、出来たら読んで下さい。素人なら素人なりに、どう云ふ所が見せて序文を貰ひますが、としての面白さ、また叙述の面白さ)、どう云ふ所がわからないかなどの感想をほしいのです。今にして去年、北山氏が僕の批評をあんなに喜んでくれた気持がよくわかります。

雨がびしょ／＼降りつづいて、本格的な梅雨です。ヨーロッパの第二戦線、太平洋のサイパンなど、歴史家にとつてもまたこの上なく緊張を要求される世界史の展開です。北山君は即日帰郷になりました。新庄君も、二人とも丙の甲。だが兵隊になるにせよ何にせよ、大したちがひではないと思つてゐます。死ぬにしても生きるにしても。だが生活への愛情だけはもつともつと徹底させて行かねばならない、僕に最も欠けてゐるものは生活への愛情、熱情だと思つてゐます。では又。二、三日中に小包を送ります。

早々。

幸子から謙一あて(一九四四年六月二三日の記、二四日の消印)

六月廿日附のお手紙、さき程拝見致しました。

いろいろお野菜もあつて、珍らしくごち走もあつたとのこと、安心致しました。寛ちやんのお家で、そんなにいろいろ送つて下さつて、本当にすみませんね。おかげで大助かりでせう。あなたからお礼申上げる事をお忘れなく。こちらもないくとは云ひ乍ら、此の頃はお萩もちよこく貫ふし、砂糖の交つたきな粉のお握りも毎日一個位は食べられ、昨日棒パン（（中））二袋、水飴大井一杯（各人大スプーンで五杯位）貰ひました。お砂糖入りのうどんと豆のおいりも、たいていの日は長火鉢の引出しにはいつてゐます。最もこれは早苗用ですが、チヨイく失敬出来ませう。

写真が出来た相で、楽しみにまつてゐます。どんな風になつたか何とも書いてないので、尚更早く見たい気がします。箸箱や千代紙箱は来る時でよかつたんです。ほら、よく、何がいいかなアつて困るでせう、お土産を買ふ時に。だから御参考と云つたところだつたのです。注文したみたいでいけませんでしたね。プランでは物凄く立てこんでゐるんですね。今月中に独立戦争100枚なんて、出来るかしら？ 又徹夜しなくちや駄目なんでせう。營養悪いのに、そんな事をするとむ茶だと思ひますが。独立戦争は相当面白いでせうね。100枚できつちりいれるとすると、主要なポイントは戦争に至るまでのところですか。慶応で話すのは、此の前書いてゐたプランテーション問題が同じテーマでせう。それだつたら別に下ごしらへは、それ程大変ではないのでせうね。なる艾プラン通りキチくやつて、お休みとれる様に、期タイ致します。

中村商さんから其の後手紙が来ますか。

一昨日、夏期のボーナスが送つて来ました。額は三一八円で、税金と前渡と国債とを差引いて百十円位、かわせで来ました。鉄工聯の細田さんから手紙が来て、六月廿八日で休職になるから、そのまゝ身柄は鉄鋼統制会へ引きわたす、其の方がよからう、と云つて来ました。

大分ドストイエフスキイに熱中の様で面白さうですね。私は今のところ、一寸読む気は起りません。併し、あなたのと前夜、にあらはれたものとは大分異ふでせうか。ツルゲーニエフはそれを至極客観的に表現してゐる様に思つてゐます。新しい歴史の動きを感じ乍ら、参加したいと願ふ心持は非常にあり乍ら、ついてゆけぬ、結極彼等は古い落ちてゆく階級の側にあることを感じさせられました。

昨日まで（今月八日から）の二週間は、毎日、ふうちやんが留守で、帰りは夜の八時一ひどい時は九時半になるので、炊事も掃除も早苗のお守りも一手引きうけて、殆んど読書や勉強の暇がなく、日記の勉強欄は／線ばかりでした。明日

から解放されずから、午後二時間位、うまくすれば朝四〇分位、夜は無限に時間がとれるでせう。アメリカ史の夜の講義は続いてゐますか？ 私の方は北西への路―を大体終り、あれでまず英国のアメリカ植民地がインデアンや隣接植民地と抗争の件について、少々知識を得たわけですが、植民地の内部での対立や、植民地と英本国の対立の辺、求めてあまり得るところはありませんでした。第二巻の方は略したのですが、第二巻はロンドンに於てですから、英本国の政策なんか出て来るでせうね。矢張り下巻もていねいによんでいた方が良かったかしら。其の辺のこと（アメリカ史の勉強について、今私のとつてゐるプラン）、御意見きかせて下さい。

何れにしてもあまりプラン通り進行してゐないので詰らなく思ふ事もありますが、のろ／＼でも、ストップする気は全くありませんから、吾乍ら其の点はうれしく思つてゐます。二階の勉強まも中々整頓出来て、朝なんかは光線もうすみどりいろで実に落ちつくのですが、午前中は一寸も部やを活用出来ません。もつたない事です。

では、今日は、これでさようなら。
寛ちゃん、利ちゃんによろしく。

六月廿三日

幸

謙一から幸子あて（一九四四年六月二九日の記）

御手紙有難う。

元気に御勉強のやうで安心してゐます。身体も調子いいのですね。

「歴史を作る人々」の第三巻を見つけたら買つて送らせて下さい。二、三日前「怒りのぶだう」の原書（一九四〇年）を五円で買つて、掘り出しものを得た快感を味はりました。

東京も本格的な夏になりました。麻服とヘルメットを明日ぐらゐから着用です。野菜を買ひに畑へ行くと緑の暑さ―支那では夏の暑熱の神を「青帝」と云ひましたね―は全くはげしいが、その暑さの中で、バルザックの「農民」に出て来る何とか爺さんみたいな、まるで土地へ根を下したやうな、桑の根を想はせるやうなガニ股の、首と顔と手とのひどく陽やけのした、強烈で表情の豊かな大きな眼を除くとまるで彫物のやうに硬い顔のお百姓（之が僕の配給酒を進呈した相手ですが）と、その息子の眼鏡をかけてもつと近代的な表情をもつた四〇近くの人（この人と僕達はよく話し込むの

ですが）とがキャベツを畑から切つてくれたり、ねぎをひきぬいてくれたりします。爺さんはその硬い彫りの深い顔で、無口なくせに実に懐しい愛嬌を僕達に見せてくれます。（彼の眼は篠田さんの眼に似てゐます）。

前の手紙を書いた頃が我々の物資の最好況期で、利ちやんの持ち帰つた有田（ひろちやんの家）と和歌山の家とからの野菜、米、豆、等々も、若干のごぼう^(註)だけ残してすつかり一週間で平げて了ひました。その後は、野菜の配給も極度に悪く、魚は全然なく、専ら僕が経堂から重い思ひでさげて帰るキャベツや大根やねぎ（もうちきトマト、キュウリも買へます）が主要食糧で、脂肪分と蛋白質との不足とが、若い二人に苦痛だらうと思つてゐます。若し大豆でも少しづつでも送れたら送つて下さい。だが無理には送つてくれる必要ありません。辻岡さんへ送つたと云ふ野菜はつかかなかつたさうです。辻岡さんは留守が多く、近く福井へ疎開するさうです。この頃はひろちやんが家にゐる時が多いので、辻岡さんへは何にも頼みません。一度僕が信州にゐた間にタケノ子の煮たのを届けてもらつて以来何にも厄介をかけてゐませんから、途中没収される危険まで冒して送る必要はないと思ひます。若し必要なら僕が経堂から買つて来てわけてあげるつもりです。

前の日曜にひろちやんをつれて鎌倉へ行きました。みつちやんは働きすぎて（米をとりに行くのに十町近くも歩いて行き七キロかついで来たり、配給物で重い思ひをしたり、水を汲んだり）少し下つたらしく、七月にお産ださうです。何だか生活の苦勞を感じさせられました。何か訴へたいかのやうにも見えませんでした。戦局から云つても、早く身二つになつておく方がいいと思ふと云ふ島村君の言葉に僕も賛成です。僕達の鎌倉行きの目的は本を探すことにありましたが、バルザックのコント、ドロラティクの英訳全文をみつめてホク／＼しました。

僕は独立戦争をついてゐる中に、オランダ独立戦争に大いに関心をそそられて、また米國独立戦争が書けなくなりさうですが、之はガマンしなければなりません。オランダの場合は、あれだけ苦難の後に戦ひとつた共和制が、一七四七年には完全に十六世紀中葉のフィレンツェのやうに、悲しき王国に転落して了ふ。何故か。第一に共和制が商人等有産市民の独占に帰して彼等は民衆から分離し民衆を疲弊させて了つた、その為オランダ家の如き土地貴族が、民衆勢力の有産市民への反感を利用して共和制をつぶすことが出来た。第二に商人的有産市民が工業の發達を導かなかつた、云ひかへれば産業革命が行はれなかつた。グロチウスやヤン・デ・ウェットもまたスピノザさへオランダ民衆の眞のエネルギーと直接結びつかなかつた。レンブラントが乞食の絵をうんと書いたことは、あの時代の絢爛たるオランダ社会の本質を示唆してゐる。レンブラントの意義の究明に対する関心が今更ら刺戟されます。ブリューゲルとレンブラント。

そのつながりは、ブリューゲルの「乞食党」とレンブラントの乞食。実際「乞食党」は、イギリス革命の「レヴェラー」、アメリカ革命の「自由の息子」、フランス革命の「エベールチスト」等と共に、革命の推進力の問題に解答を与へるものでせう。僕はいつか之等のすべてを分析してみたいと思つてゐます。面白いものが出来るにちがひない。

今日、竹中君に召集が来しました。十三年度の丙種の甲です。七月五日入隊（東京）。サイパンの戦局は更に大動員を予想させますから、僕もおつつけ来るでせう。こんな風に書いてゐる間にも来てゐるかも知れないのです。さうなるとオランダ革命など慾張つてゐられない、ともかく独立戦争だけでも早く仕上げねばなりません。僕の著書の印刷も遅れて先週出る筈の初校がまだ出来ません。何もかも今更らあはただしく感ぜられます。日曜の夜竹中君の家へ行きます。

「アンナ」を読んでいろんな事を考へさせられてゐます。アンナの魅力はアンナの心の状態にある、アンナの心は常に憧憬し切望し欲求する。アンナの欲求は「虚偽でないもの」「真実なるもの」へとひた向きに向ふ。だがアンナの生活環境はアンナの欲求に対して確答を与へない。アンナの社会的歴史的地位からは、眞の生活、普遍へ通ずる個の生活、歴史的本道にしっかりと足をつけた生活への道がなかつた。アンナの欲求はだから単なる脱却、虚偽からの、「真実ならざるもの」からの脱却でしかなかつた。アンナの生活に於ては、さうした脱却は、眞情の解放と主張、情熱的恋愛より外にあり得なかつた。アンナの余りにも不断に傾斜する心、憧憬する心は、眞実の状態を恋愛の白熱の中に見出さうとした。アンナの最も人間的な「生きる欲求」は強烈な全身的な全世界的な愛、他者との完全な合一に見出さうとさう云ふものは歴史的生活の内容をもたない限り幻影であり、バク然たる夢にすぎぬ。しかのみならずウロンスキーは、アンナよりも更に生活を有さず、しかも彼はアンナの如き眞実なる「心の傾斜」、欲求がなかつた。従つて彼には全世界的な愛、他者との完全な合一の状態への欲求などあり得ず、アンナの心情への眞の共感、その理解はあり得なかつた。その点でもアンナの自殺は必然であつた。

第二にアンナは、戦ひこそが人生であることを深く理解し得たが、何と戦ふかについて理論を有するまでに到らなかつた。アンナの生活からはさう云ふ理論の成育の可能は乏しい。だから彼女は、戦はねばならぬことを知り、また彼女流に戦ひながら、彼女の敵の大きさ（夫、法律、社交界、偏見、ウロンスキー、そして彼女自身）を理解し得ず、支離滅烈に、悲しき劣弱感の中で戦はねばならなかつた。戦ひに対して彼女は、余りにも無力であつた。ここからアンナの自殺のもう一つの必然が帰結される。僕達もまたアンナのそれに共通する「心の傾斜」、欲求する心の状態を持つてゐます。それが我々の現実的な生活力を伴ふ時、我々の生活は充実せる統一を以て進展するが、その力を伴はぬ時、焦慮と

不安とが避けられない。欲求する心の状態にエネルギーの一つの根源がある。物理学的にも傾斜には位置エネルギーがあるやうに。だがより重要なエネルギーの根源は無論精神の内質、一種の電子運動にある。とにかくアンナを読みつつ、僕はファウスト、メルモット、マンフレッドのやうな、疲れを知らず欲求する魂の巨人達、バルザックやシェクスピアの多くの主人公達への新たな関心をかきたてられてゐます。これらの無限に不断に憧憬し欲求し運動する魂が、現実的な生活力を伴はない時、歴史の本道から遊離する時、ニイチェになり、ドストエフスキーになる。あのスタヴローギン（悪霊）の安定―これは十九世紀後半のインテリゲンチヤ達の不安、耽美、惑溺、エキゾチズム等々と共通の土壤に咲いた同じ世紀末のあだ花の一つ。決して美しくない。トルストイも、アンナとレーヴィンとの間を彷徨しつつ、チュルニーシェフスキーやゴリキーの道を進めず、歴史にとり残され、遂に宗教的安定へ、無抵抗的人道主義へ（ドストエフスキーの解決へ近いものへ）、落ちついて了つた。「アンナ」の中にトルストイの到達せる頂きがあり、「アンナ」の中にトルストイの後退の全契機（レーヴィンの悟り）があつたと云ふ通念の正しさ。とまれ「アンナ」の世界は、憂鬱なほど僕の心に迫るものがあり、その意味では、ドストエフスキーの「深刻」さうな「憂鬱」さうな世界の方は、はるかに傾斜のない、安易な、いはば淀みにまでたたへられたなまぬるい世界だと感じます。

フウチヤンの香水やお父さんの箸箱、千代紙箱等々は七月十日頃直接に持つて行きます。本を鉄道便で二、三送ります（二、三日中）。絵の本と人類学。後者はお父さんがお読みだとのことですから先に疎開させませう。そちらも本の置き場なく御迷惑でせうが、応召が近いとすれば、なるだけあなたの所へ送つておきたいのです。預ける所でもみつけて下さい。和歌山は安全でない。

竹中君が征くことは僕にとつて、僕の懐にとつて痛手です。まだ残してあつた借金も返さねばならない。早く本が出来るといふと思ひます。

では皆様によろしく。

六月廿九日

謙一

幸子から謙一あて（一九四四年六月末ごろの記）

昨日は写真を有難う。皆で眺めて、楽しみました。こちらへ来てうつつしたのも、一昨日出来ました。あの頃の写真に比

較すると私も随分ふとりました。

郵便局の二階は十帖三間、八帖一ま、の四までです。大きすぎますね。借りられるかどうか、はつきり当って見ませんが、あいてゐる事は事実で、時々集会に使つてゐるだけで、もつたいない、と郵便局の女の人が云つてゐました。

七月の十日頃に来るのなら、其の時話してみ、見にゆきませうか。其の後にある小さい家もあいてゐる様な口ぶりでしたが、あまりしつこく聞くのは、止めておきました。

住宅と云ふ雑誌の古いのをみると凄い家が沢山ありますが、書齋のすばらしいのは始んどありません。書齋特輯号と云ふのにすらも。日本人は客ま（めつたに使はぬ）には善い場所をとるのに、書齋と云ふものは、実にギャクタイするものらしいです。私は書齋兼応接まのかつちり天井の高い一ま、ベッドルーム—これはせまくても疲れた時よめる本などもおいた部屋にして、キモノ類もおくと云ふ風に、寢室兼納戸、化粧部やが一つ、あとはタイルでたたんだ台所（そこで食事を出来る）一つ、この三つがあればいいと思つてゐます（間取り図省略—編者注）。

今日は歴史を作る人々の第一巻を終りに近いところまで読みました。これも前に一度読んでゐて、ところ／＼覚えてはゐましたが、全体に於てはまるで異つた感じを受けました。まだ其の異つた感じ、と云ふのをよく確めてあるわけではありませんが。

—トオリイ党のことも植民地軍の事も知らなかつたので、どつちがどつちたがム関心によみすごしたらしい—今度は其の相違がわかつてゐたから諸々の点について同感もし、又異議も持ち得ました。

あの中に出て来る忠誠派（アメリカ人であつて英本国の政治に暴力的に反対する事もせず、妥協点を見出す事に最後まで希望をつないだ人々）、特に主人公オリヴァの父S・ウキスウエルなどは、何時の時代にもある典型的なインテリゲンチヤではないか、などと思ひました。彼等の社会的な位置が彼等をあの様な不安定、不徹底にとどめるのではないか、—登場する水夫や商人や、ブエルの様な職工たちは、曲りなりにも歴史の動きに敏感であるが、前者は固定した観念の世界からしかみる事が出来ないで、真実の歴史の動きを見出し得ないのではないか。

レートン、ウキズウエルや、ロードアイランドの沼地にかくれてゐる善良さうな判事たちは、個人的には申分のない立派な紳士であるが、歴史の変動期（？）には悲劇的な存在でしかない。悲劇的ではあるがヒロキックではない。彼等の行動には同情も理解も持てるが、全的に肯定出来ない。彼等はすぎてしまつた時に於ては典型的な美しい存在であつた

にすぎない。

王の政府は絶対に信頼すべきものであると考へ、政府の方針には無批判であるが、植民地の独立派に対して批判したり考へるときは、暴徒を対象にしてゐること、暴徒のうちでも群盲丈を。ロードアイランドの沼地になつて親愛なるロジャース大佐が登場して来ました。どうやらロジャースのユウレイの如きものが。

不二ちゃん託児所の先生たちとあちばらの温泉に行つて来て、甘い卵やきを食べたと言つてゐました。七月にあなたが来たら行つてみませうか。大鹿の方だつていいけれど。

今、庭はくちなしの花盛り、二本の木にゴチャ／＼について、すばらしくブン／＼にほつてゐます。

野菜はまだ好調子ですか。こちらの畑はレタス、大根、茄子、キウリがとれ出しました。いんげんも夕方十五本とりました。トマトもかぼちやも実がつかました。原宿のかぼちやはどう？

謙一から幸子あて（一九四四年七月八日の記）

その後御元氣のことと思ひます。

いねちゃんが一昨日、経堂へ訪ねてくれました。あなたは二貫目肥つたさうですが、もう一貫か二貫肥らないと安心出来ませんね。こちらは相かはらずです。トマトが出はじめ、まだ高い（一貫目二円五十銭、その家はキウリでもなすびでも皆一貫目二円五十銭です。前便に書いた農家の方はキウリ一貫目一円ですから、同じ百姓でもずい分ちがひます。安い方のそして僕の馴染みの方の農家ではなすもトマトも少しおくれから買へるのです。その爺さんに「あなたの損にならぬやうに値段をつけてくれ」なんて云ふと、「損なんかにやなりませんよ、支入れものぢやないんだから損になるわけはありませんよ」と云ふ答へで、自分の労働をタダに見つめてゐる典型的な農民的イデオロギーの所有者です）が毎日おやつにもたべられます。そのせいか昨日から下痢になりました。余りひどいのではないが。

応召は相ついで、櫛の齒を引く如くです。竹中君は僕にとつてこの調査会では最良の友人でしたから、二日の招待された夜はムロンのこと、入隊前日の四日、警報が出てゐましたが、どんな風でゐるかちよつと気がかりだつたのと、キウリのいいのが買へたのでそれをおみやげにたづねてみました。割合元氣で、ひきとめられるままにいつい遅くまで話しこみました。その日は交ジュン社で僕の講演（？）があつた日で、彼は出られなかつたのです。その朝警戒警報が出て、

クラブの出席者は幹部ばかりの三人しかなく（幹事のダイアモンド編輯長松沢氏、朝日新聞論説委員島田氏、東京新聞論説委員福良氏）、気の毒だから次週へのばしませうかと云はれもしたのですが、僕は実はそのくらいの方が思ふ存分しやべれるし、今までこんな風な烟草がひの大人を相手にしやべつたことがないのでそれも一つの魅力だったし、また三人ぐらいの方がインテイメイトにしやべれるとも思つたので、敢へてやりました。聴き手は何れも聴き上手で、ノートをとつたり質問したり大変熱心にきいてくれたので、こちらも夢中にトツ弁の熱弁をふるひました。そのため肝腎のプランテーションの内容説明に入るまでにすでに予定の時間をとつぱして、結局一時間半みつしりしやべつたわけです。新聞人だけにカンがよく、それに大体四十四、五かその前後の人達なので言葉もよく通じるし、こちらの話すことの急処を理解してくれてゐるのがわかり、大変面白がつてくれたので愉快でした。その中歴研でもシヤベつてみようかと思つてゐます。人前でシヤベル訓練を心がけてゐるのです。

竹中君の征つたあと、今日も調査会で一人出ました。調査会はまだ少い方だが、立教のアメ研は、浅野、神野、川端、三君が出たし、その中の神野君は和歌山の丙の乙で、昭和十一年。三月に応召して帰された北山君は和歌山の丙の甲、昭和九年でしたから、僕は当然九月の番です。だがサイパンその他の戦局の緊迫から恐らく一ヶ月早くなるだらうと予想され、何れにせよ、あと半月か一ヶ月と云ふ状態です。

それに今度、経堂の方に防空宿直制度が出来、家族疎開者で、ここに下宿したい者は、さう出来るやうにはからふと云ふ話になつて、或ひは僕が、原宿を引き上げてここにすみこむかも知れません。さうすれば、荷物の運パンその他はすべて調査会でやつてくれるし、僕も思ひ切り勉強出来ます。食事は二階に水道があるし、下に小使さん夫婦がゐる、たのめるのです。原宿の方も床板は頼りないし、ごみはすてられない、二人とも掃除はしない（この頃は、大てい毎朝僕が階下と表、玄関、裏をはきます。朝食を作つてゐる間に。その代り、ひろちゃんには夕方水打ちをやること、時々ホウキの音をひびかせることを命じてゐます）、何にしろかにしろ、やつぱり云はなければ二人はしないし、つまらんことを云ひすぎるのも自分に不愉快だし、生活が面づくさく仕事が進まず、警報の時の二重生活も不安定で、一切をてつとり早く解決するために結局僕がここへ来る外ないと思ふのです。さうすれば食ひ物の心配もありません。野菜やその他のものが買へますから。今は三人のおかずを毎日買ひ出して来て、原宿まで持つて帰るのですから大変です。キヤベツ一つでも、トマト一貫目でも、外の荷物と一緒に可成りな荷であり、電車を二度のりかへるのもおたくうです。また召集が来た時は、同僚に後をたのみ、荷物もここへあづけておくことが出来るからいいと思ひます。利ちゃんの宿

先も池袋に候補がありさうですし、若し何なら吉祥寺の磯谷へでもたのめるでせう。ひろちゃんは学校の方はのんびりしてゐるし、どこかに探せなくもないでせう。何だか二人に対して冷淡なやうですが、かう毎日食ひ物の心配や家事の煩はしさ（大家さんの告げ口式なうるささ、隣家の頼りなさ、また配給は綜合配給になつてから、魚やでも八百ヤ（魚清の隣）でも列も長くなり不便にもなりました）で、仕事に専念出来ず、愛情の点の不満に加へるに仕事の緊張感の満足させられない不満が僕の神経を一そう不安にすることに疲れました。

まだここへ世帯をうつすことを具体的に決定したわけではありませんが、僕自身はずい分その気になつてゐます。ここから信州へ引き上げること、原宿からの場合より簡単です。結局年末までがんばつて出来るだけ資料をあつめておかうと思ひます。あなたも中途半端で大変気の毒ですが、どうかもう暫くがまんして下さい。召集がないか即日帰郷になるかすれば、遅くとも年末までには信州へ行つて新しい生活を建設するつもりです。戦局も近く大転換がありさうで、見透しももう暫くすればはつきりするでせう。

僕の信州行きはお盆すぎになります。仕事がおくれてゐるのです。それに今月に入つて他を訪問することが多く、夕食も外で食へることが多いのです。一日には利ちゃんをつれて鈴木圭介の家へ、二日は竹中家、三日は竹中壮行会、四日の夜また竹中家（恵美寿）、五日は村瀬家（小林君の壮行会で吉武と二人招待されたもの、夫人にあなたへのプレゼントのお礼を云ひ、トマトをおみやげにしました）。六日は北条家（北条夫妻が誰かにきいて前日経堂分室をたづねてくれ、招待を受けてこの日五時から十時までシャベリこみ、ごちさうになりました）、昨日だけ家へ夕方帰りました。今日も北条君の所へ帰りに寄る予定です。明日日曜は、小林君が千葉へ是非来てくれと云ふので、吉武、村瀬と行く予定です。今夜吉武が僕の家へ泊ることになつてゐます。小林の妻君に対する態度について、もう一度はつきり云つてみる予定です。村瀬家では村瀬夫人がゐたので、話がその方へ行かなかつた。伊藤のんき君もその中出てくるでせう。早川家へはまだ行けません。東部戦線の模様で、早川家へも行きたいのです。

調査会では竹中君去つたが、八木氏と云ふ相手が出来たので、話相手と云ふ点では困りません。この人間関係は本室よりはるかに簡単だが、それでも若干あつて、女の子が時々不満を訴へに来ます。ひろちゃんはあなたの会社のことを戯曲にして読んでくれと云ふので読みましたが、やはり浅薄です。どの人物もソザツに類型化されて、典型的環境乃至状況に於ける典型的性格と云ふ点でも、細部の眞実性と云ふ点でも全く出来てゐません。人物は何れも対立物の統一として生きた形で描かれず、デクの如く言動します。可哀さうだが、その点をはつきり指摘して批判してやりました。ま

だ現実の観方が出来てゐないので。
追伸六月廿日かその頃の前便はつきましたか。

謙一から幸子あて（一九四四年七月一〇日の記）

前略

僕が経堂分室に住みこむ件、正式に決定しました。いつか書いた図の二階の二畳が私物を置く所謂私室、十畳は研究室で机を少し寄せて寝る場所をつくり、板の間三畳へ書棚三つを置きます。リヤカー三台が調査会からまわされる予定。既に書籍を毎日少しづつ運んでゐます。洋服ダンスはいねちゃんかあつちゃんかあつちゃんが預つてくれればあづけますが、大きすぎるなら処分したいと思ひます。いかがですか。ダンスはあつちゃん達にあづけます。持つて来るものは、机一つ、テーブル一つ、椅子（坐り□□^{椅子}など）二つ、本棚三つ、ラジオ、ふとん、行り三つ、食器棚一つ、大鏡、下駄箱、タラヒ、火鉢、冷蔵庫、洗面器、食器等です。あなたの御意見いかがですか。

利ちゃん、ひろちゃんは、下宿します。利ちゃんは学校の近くへ行き、鈴木君や立教の連中によろしくたのみます。ひろちゃんは高円寺の叔父さんの所へ行くでせう。前から向ふ³で来いと云つてるさうです。尤も子供があるので、下宿をさがさうかとも云つてゐます。とにかく外食下宿は割合簡単にみつかるさうです。

大体ひっこしは、廿日―廿五日の期間にやります。戦局重大で早い方がよささうです。こちらでは露台で自炊するつもりです。買出しは小使さんの妻君^妻にたのみます。なほ一色さんと云ふ人は、その奥さんが恵泉女学校の理事か何かで、西大久保の知り合ひだつたと思ふので、土居叔父にもよろしく頼んでおきますから、応召その他の時はうまく行くでせう。どうせせいぜい冬までの生活ですが、出来るだけ勉強しておきたいと思ひます。勉強と云ふ点では恐らく現在の僕の境遇^境で、之以上望めないほどの好条件です。炊事はガスがないので、小使さんにたのめればそれにこしたことはないが、配給制度だといろくめん⁶どうなので、自分でやるわけです。これで半年やれば、南北戦争も目鼻がつくでせう。あなたには中途半端で気の毒ですが、もう半年だけ我がままを通させて下さい。

そちら御迷惑でなければ、十五、六日頃に信州へ行きたいと思ひます。御都合御知らせ下さい。昨日、ふとんわたを送りました。

一昨夜吉武君がとまり、昨朝村瀬君も加へて一緒に千葉菅田の小林君の招待に応じました。思つたより遠く(二時間ばかりかかる)、思つたより田舎でしたが、彼の叔父さんと云ふ元の代議士の鶴岡氏が大いに歓待してくれて、おひるに着くとすぐ、しばらくたての牛乳一升と甘くふかしたジャガイモ山盛りをおやつに、それから風呂には入つてユカタにきかへ、のりまきずしとジャガイモをつまんである間に、酒と冷奴と今朝とりたてと云ふいわしの塩焼を山盛り、それから卵つきの鳥なべ、鳥を二羽つぶしたさうですが、やきどうふがあり、さとうをたつぶりつかつて朝鮮の石なべで、本當にうごけないほどたべました。そこへカレーライスとおしんこ、甘いみかんジュース、之でおはりです。食事は一時半から四時近くまでかかつて(シャベリシャベリ)、七時半の汽車で帰りましたが、家へ帰つても(九時半)ちつとも腹がすかず、まづ近來にないアホウの天国を味ひました。

小林君と好子さんとの關係は、向ふへつくつとすぐ迎へに来てゐた彼と二人きりで(吉武、村瀬両君は好子さんとキャベツの自由販売に買ひ出しをやつてゐたので)途々ききただしましたが、彼は好子さんともつとよく話し合ひ、自分の要求と相手の要求とを交換してもう一努力やるつもりになつてゐたので、僕もそれについて極力すすめておきました。彼は何とか妻君の文句を云ひながら、既に三人目の子供があと四ヶ月ぐらいでうまれるやうな状態になつてゐるのです。

どうも僕には彼の心理にピンと来ないところが多いのだが、この前云つてゐたやうな、だまつて上海へ行つて、そのままやむやに解決すると云ふやうなことをやらないだけの反省はしたやうで、その点安心しました。実は牛乳ぐらいは御馳走になるつもりでも、こんな饗応にあづかる意図も予想もなく、三人とも弁當なり米なりを持つて行つたのでしたが、そんな風だつたのです。彼の二世は二人とも全く田舎の子で、スダカみたいにして遊んでゐました。可愛い(可愛いが、目まぐるしく、そこらの子供と見分けもつかない。好子さんはもう可成り自立つおなかをしながら、相かはらずくつた)のない愛嬌ぶりで、もう五十近いのに大変いきでシャキ／＼して我々をちつともそらさない伯母さんと、大働きでした。あなたによろしくと二人とも云つてゐました。

牛乳にしてもとりにしても、やきどうふ、じゃがいも、すべて留守の二人に食はしたいものばかりでした。おみやげはカボチャとなすび。

昨日僕の留守中陸士の政二君が来たさうです。コーリヤン入りの米をもつて来て、トマトやなすびをおかずに食べたさうです。

では数日中に会へるでせう。お母様、お父様、ふうちゃんによろしく。たまに便りを下さい。

早々

七月十日

幸子から謙一あて（一九四四年七月二一日付け）

謙

六月廿九日附及七月八日附共お手紙落手。十日ころこちらに来ると思つて、返事はさしひかへてゐたのです。三人の合宿の不便さ、さこそとおさつし致します。

勉強出来るためにした合宿ですから、それが障害になつたら、一も二もなく解散する方が最善の処置でせうね。二人とも21才にもなり兵隊なんだから、余けいな心配はいらんでせう。今月中に片をつける事ですね。

経堂の事ム所の当直の件、絶好のチャンスではありませんか。早速引越さない。おすゝめします。

独立戦争、少しづつあちこちと当りました。独立戦争は、私はそれに至る経過に意味があると思つてゐたのですが、今になると、戦争直後が実に大きな意味を持つのではないか、と思はれます。

参考によんだものは、北西への道、歴史を作る人々、フランクリン伝、○ユートピア、○ガリヴァー、アダムズの米国史（これは独立戦争の前後まで）、文化史大系の中のアメリカ、です。○印は、一寸変なようですが、独立戦争の後の事をよんでゐたら、一寸よみたくなつて、よみました。

もつと家にあるもので役に立つものはないかしら？

一、北西部条令（内容） 一、憲法制定、此の二つはどうもまだよくわかりません。今度来た時に教へて下さい。

結局英国のクロムウエル革命の時の浪の高まりの其の余波が、アメリカ独立戦争への波のショックになつてゐ、アメリカのそれはフランス革命に浪うつてゐたのではないかしらん、と一寸考へましたが。クロムウエル革命に至る前にはオランダの独立——があつたし、——歴史とは真実に人類の進展の過程を云ふのだなアと、つくづく思つてゐます。

浪の高まりは消えたかに見えても、又、より大きい形で寄せ返してくるのだと思ひます。

ヤチ／＼乍ら、此の頃は全く一生けんめいにアメリカ史に全心思をうちこんでゐます。あなたの集めた材料も相当あるのだし、語学もポツ／＼でもつづけて、原書もすこしはよめるようにしておき、若しもあなたが戦争で仕事のうち切られるような事になつても、おくれはせ乍ら、其のあとをつづけてゆきたいものと思つて張り切つてゐます。先づ、これで私の一生のうちにこの目的が出来たと思つてます。

四日から熱が出て、——アスピリンやヴェルナルの服用で、又すこしやせたし、のうひんけつも二、三度起しましたが、此のごろは一日に四時間位はアメリカ史関係の勉強をつづけられるようになりました。

謙一から幸子あて（一九四四年七月二三日の記）

お手紙有難う。

僕は十五日の夜行か十六日の昼の汽車で行きます。経堂への移転は二十三日の予定。ですから四、五日御厄介になつて月給日頃に帰ります。米はまた窮屈になつて来てゐますから、僕の留守中は充分注意してくれと云つてあります。彼等は下宿すればそれ以後の食糧は保証されてゐるが、僕の方はさう云ふ保証がないのだから。信州でメリケン粉でも買へれば買つて帰りたいと思ひます。無理かも知れませんが。

ひろちゃんはこの（経堂）近くの下宿をあたつてみると云つて今日昼頃、ヤサイ買出しもかねてやつて来る筈です。利ちゃんは学校近くをあたつてゐます。

僕は信州へ初校（プランテーション）を持つて行つて校正するつもりです。印刷が大分おくれました。目下独立戦争を書いてゐます。

あなたの勉強、うれしく思ひます。今度こちらへ鈴木圭介君の「独立戦争の経済的背景」と僕の「独立戦争」とを持つて行きます。北条君の「芸術の科学」の原稿の第二章までをノートしましたから、それも持つて行きます。小此木君のホンヤク（この間話してゐたレーンの心理学）は十五日までには借りられないので、いつかその中大意かノートをお伝えします。

こちらへすみ込めば大いに勉強出来ると思ひます。本も手もとに揃へられるし（安全だから）、時間は全然豊かになります。現在のやうに、夜は九時半から十時まで弁当のめしを炊き、十時半か十一時に寝て、朝は五時半に起きて弁当をつめ、雑炊をたき、弁当のおさいをつくり、掃除もして、結局二人を飯に呼ぶ七時少し前まで全然本がよめず、食後と云つても八時半に出かけるまでの半端な時間は余りつかへないと云ふ状態と比べて雲泥の差です。目下毎日日本を経堂へうん／＼云つてはこび、帰りには野菜をもつて帰ると云ふので、ちよつと疲れます。ふるもめつたには入れず、せんたくもさうひんぱんに出来ません。

こちらなら、朝五時か五時半に起きて一日分の飯を炊けば、あとは夜十時か十時半に寝るまで全部勉強につかへるし、銭湯もトコヤも近処にあつてすいてゐるし、買ひ出しは小使さんの妻君がやつてくれると云ふわけです。一週に一度ぐらゐ本室へ出て銀座で買ひ物し、山陽堂で本をとつてくるぐらゐでせう。雨なら出なくていいし、くつもへらないし、腹もへらないし、とにかく、之だけいい点がそろつてゐれば、あと少々悪いことが出て来たとしてもまづ大丈夫でせう。これで落ちついた途端に召集が来ればそれまでですが。

では二、三日中にまたおめにかかります。本を買ひすぎてもみやげは大して出来ませんでした。てん子へパンぐらゐ持つて行きませう。皆様によろしく。

七月十三日

謙一

追 村山大シマはあります。センタクやで貰つて来ませう。

鉄道小荷物届いてゐますか。

幸子から謙一あて（一九四四年七月二一日の記）

汽車は如何でした。御ぶじでお帰りなすつた事と存じます。あれからずつと時計を見る毎に、もう何処まで行つたらう、とか、もう着いただらうとか、お母さんが度々申してゐました。東京へ着いた時刻はこちらはちようど相当の凄いいめでしたから、東京もさうではないかと心配致して居りました。

あの合羽では、シト／＼あめ位なら役に立ちますけれど、夕立降りでは駄目だったでせう。

皆の引越はうまくゆき相でせうか。早く皆終つてあなたがほつとすれば、と思つて居ります。引越さわぎは考へただけでも疲れますね。あなたも三月の終りから疎解のための旅行や荷造り其の他、神経の疲れる事ばかりで、本当にお気の毒でしたのね。早く経堂に移つて、すべての点からホツとなさればと、心から思つてゐます。

道具の事は、あなたの思つた通りにおやりになつて下さい。決して、後から文句云ふ様な事は致しません。運送其の他のわずらわしさからすこしでものがれられるんだつたら、うるさい事は決して申さぬつもりでゐます。洋单筒も鏡も、一切売るのも人にあげるのも、あなたのお心まかせで結構です。

勉強の事もつといろ／＼話したかつたのですが一諸^{（註）}にゐる時も少なかつたし、思ふ様に出来なかつた事はかへす／＼も残念でした。

けれど、私の勉強方法のまちがつてゐる点の事を指摘して戴いた丈でも充分であつたぢやないかと慰めてゐます。今までの私のやり方では、全く知識の堆積にすぎませんね。其の方法のまちがひに気がつかずゐるから、早く何も彼もおくれた分をとり戻すキになつてあせつたわけですね。

今までの考へ方だつたら、どんなに時間があつても足りない筈だし、何時まで立つてもあのあせりや自信のなさから、抜け切れないのはあたり前ね。

よく、もう一度考へてみて再出發致します。

先日、あなたの滞在中、ずつと考へてゐて、遂に云はずにしまつた事がありました。もうすこしよく考へてみなくてはと思つてゐますが、たしかに私たちの——否、あなたの考へ方（夫婦生活、愛情の）は、前とは質が變つたのですね。私の方から云へば、とりのこされた気持、冷淡に遠くつきのけられた気持、こんな筈ではなかつたと云ふき持、充たされないき持がしてたまりません。これは私の思ひすごしかしら？ さうではありませんね。きつと、あなたが大人に變つたせいでせうね。

私は、あなたが来たら／＼と思つて、此のごろのかわいた様な淋しいきもちや、精神的飢餓感（？）の一切をそこへかけてゐたのでせうか。それなのに一向充たされず、とりのこされた様な気がして悲しくなりません。

言葉では、そんな事はないと、あなたは云つたけれど、どうも私はピツタリしなかつた不満を激しく感じました。四月ころまではどんなに喧嘩してもそんな事はなかつた、と思ひます。私の何がいけないの？ 疎解のゴタ／＼や遠くわかれてすむ事がさうさせたのかしら。

よく考へてから整理してから云つた方がよかつたかも知れないとも考へますが、——何だか其の事がわだかまつてゐて、どうにも息苦しくてならないのです。カンタンに云へば、あなたはもう「私が必要でないのだ」と感じるのです。

そんな事はない、と云つて貰ひ度いき持も充分ありますが、同時に本当の事もきかせてほしいき持も充分あります。召集も来さうだし、仕事も追はれてゐるし、日常生活のわずらはしさもあるし、——あなたが前の様に個人的な問題にあまりキョーミないのかも知れないと思ふけれど、——だつたとしても、私はあなたにとつては他の人たちとは別であつてもいい筈でせう。うるさがらずによく説明して下さい。私のいけない事は、よく考へてなをしますから。

梅干やなんかは、あなたが経堂に落ちついたところにお送り致します。

あなたが帰つてからがっかりして今日は勉強出来ません。復活をよみました。さうしたら、あと他のトルストイのをい
ろくよみ度くなりました。では

七月廿一

謙一さま

幸子

幸子から謙一あてはがき（一九四四年七月三日付け）

お引越はすみましたか。

昨日からお母さんも不二ちゃんも胃痛やら神経痛やらで、お洗濯もお勝手も私一人、夜はひっきりなしのお客様でうんざりしてゐます。

別便で梅干と白す干（？）少々送りました。白す干は岩手県からのです。お気に入ったら、もうすこし送りませうか。Oliver Wiswellの第三巻、みつてあるとか云つてたでせう。探してお送り下さいませんか。皆がなをるまで、当然勉強出来相ありませんが。

では、洗濯ものをよこして下さい。

幸子から謙一あてはがき（一九四四年七月二四日付け）

鉄道小荷物二個二十四日午前中に届きました。スクラップ類の方は少々破れた位でしたが、箆（金網の）の方のは目茶くくに破れ、上半分は本をいれたらしいのがなくて、箆の中の前稿だけ辛うじて届いた次第で、運送屋から包装に注意する様と云はれました。新聞紙一枚と、白い和紙一枚だけですから無理だったのでせう。本はどれ位這入つてゐたのかしら。何なら、小包紙買つてお送りしませうか。さうして、中は三枚か四枚、新聞でまいて、ひもをかけないといけませんね。落ちてしまつては惜しい本もあつたでせうから。

謙一から幸子あて（一九四四年七月二四日の記）

お手紙有難う。

こちらから御礼の手紙を出さねばならないのに逆になりました。お母様や不二ちゃんにもあなたから御礼を申し上げて下さい。と云ふのは、まだ引越しが完成しないのです。明廿五日中にはすつかりすむとは思ふのですが。

あの日はうまいぐあひに、原宿についてから雨脚がまばらになつて、ぬれると云ふより、しめる程度ですみました。合羽で丁度よかつたわけです。汽車も電車も割合ひすいてゐたし、信州へ行くときよりは多い睡眠もとれましたが、朝六時に家につき、飯は僕の分が出来てゐなかつたので、ちよいとお勝手をやり、八時半に経堂へ出かけ、人と雑然と會つたりシヤベつたりして、また家の野菜ストックが全然なくなつてゐたので、トマト、カボチャ、ナス等を買ひ出しに行き、帰つて荷造りをはじめ、夕方二人を連れて銀座に出て梅林のトンカツならぬマカロニ料理と、今新のふぐ料理、トリコロルの甘いフルーツゼリーの食べあるきに一応満腹し、帰ると朝ちゃんが来てゐて間もなくいねちゃんも来、あさちゃんのものを出して来たり、大塚へあづける荷物について相談し、二人が帰つたあと翌日のひる（弁当）と朝の飯ごしらへをし、さうして十一時に寝た時はさすがにすつかりくたびれてゐて、朝六時までぐつすり寝ました。

廿二日は、朝経堂へ本をはこび、月給を受取り、伊藤書店の鶴田君が初校の一部（八十頁、全体の五分の一）をもつて来て、おひるまで二人でヨモヤマ話をし、それからまた野菜を買つて帰らうとすると雨になり、やみ間を待つて二時半頃青山へ帰りつき、運送屋へ行つてみると、いつもの爺さんは神経痛で一週間ばかり前から国へ帰つて、約束の廿三日にリヤカー三杯は、人手がないので一杯しか都合出来ないと云ふ話で、とにかくその一杯だけ頼んで、今度は雨の中を下の八百屋（亀屋）へ行つたが、夜にならないと帰らないと云ふので、出なほすことにして帰宅。丁度あさちゃんが来てくれたので物置を整理、庭といはず台所といわず戦場のやうにごつた返したままあさちゃんが夕食をつくり、食後再び亀屋へ行つたがまだ帰らず駄目。

利ちゃんはこの日漸く大塚文理大前の四郎さんのアパートに部屋をみつけたが、管理人が廿三日のあさにならないと旅行から帰らないので未決定だし、ひろちゃんは二、三日前から大体きまつたやうに云つてゐた吉祥寺のナラツケ会社社長宅の貸間が駄目になり、廿三日にもう一度探さねばならないと云ふ状態。校正なんかやる気にもならず、翌日の食

事をつくつて寐る。

廿三日、早朝に運送屋が来て、昨夜弟が召集されたと言つて来て、之から入隊なので今日の運送が出来なくなつただけでなく、ここ数日見込みが立たない、と言ふのです。それで稲荷神社近くの炭屋へ頼みに行つたが、之も四、五日しない手があかない、次に亀屋へ行くと、今日明日はふさがつてゐるが、外の連中をきいてあげませうとのこと。しかも大塚アパートへあづける分（洋服ダンス、ふうちやんのタンス、ジュウタン、下駄箱、たらひ、いねちやんの机、椅子その他あさちやんがほしいと言つて物置き3の整理から選んだ小物など）は日曜でないとい困るので、今度は日野屋の向ふ3の肉屋へ行つてみると、昼まで帰らないからわからないと言ふ風で、全く困りました。

二人は朝から下宿を決定するために弁当持ちで出かけたし、僕はとにかく昼まで本をつめたり、鉄道小荷物（衣類、カヤ、下駄、本、アルバム、スクラップ、その他）を十個近く作つたり。この日を殆どあきらめてゐると、利ちやんはアパートがきまつたと云つて帰つて来、一時半頃肉屋も来て、大塚まで運んでくれることになり、それを送り出したのが二時半。三時にいねちやんがお弁当（夜の分）をもつて来てくれて、四時半まで本をつめたり小物をつめたりを手伝つてくれ、もうリヤカーがつくかも知れないからと帰りました。その頃ひろちやんも漸く吉祥寺に部屋がきまつたと云つて帰宅しました。夕食前に僕は大家さんへ家賃をとどけて引つこす話をし、サイトウさん、辻岡さんへも一応あいさつしておきました。夜は、二人は夫々、吉祥寺（磯谷）、高円寺へ出かけ、僕は釘をぬいてはあき箱をつくつたり紙くづをまとめたり。

ひろちやんはこの夜は帰らず、十一時半まで待つたがそのまま、辛うじてあきまをつくつてしいた床へ寐る。

今朝、朝飯のすんだ所へひろちやんが帰り、昨夜高円寺の子供が腹をこはして入院したんだとのこと。僕は亀屋へ行つて、火曜日にリヤカー三台をとうとう約束出来ました。鉄道で送るものも、亀屋でやつてくれます。洋服ダンスは、この間の話では送れると言つてゐたのに、やつぱり証明なしでは送れないことになりました。結局証明なしで送れるものは本の箱かふとんぶくろぐらいで、今また学童疎開を始め疎開荷物フクソウして、鉄道輸送が困難なのだそうです。本の箱三つと机（二階の足なしの）とだけ送つてくれることになりました。机は足なしのおかげでせう。さう云ふわけで洋服ダンスも下駄箱も不二ちやんのタンスも、あさちやん達にあづけることにしたのです。

ナガシは深水さんの所で買ふと云ふ話もありましたが、運送屋の都合が中々つかないので、大家さんに買つてもらふことにしました。防水桶その他も一緒に。いくらになるかわかりません。大家さんは今朝は大きなトマトの冷したのをく

れて、おまけにお勝手ですつかり切つたり洗つたりしてくれました。辻岡さんから着物を返してもらつたので、之も小荷物にしました。

今日も荷物を若干持つて経堂へ来て、今お手紙を見てやつとペンをとつたのです。以上が、いはばお父様、お母様、不二子さん、あなた、へお札の手紙も書きそびれて来た矢札の云ひわけなのです。

とにかく明日廿五日中には、どうやら一切すみさうですから御安心下さい。今日は之からまた帰つて、町会その他の手続きをやり、掃除やあとかたづけの出来る分をやつておき、夜は大久保へ、何か今日買へるやさいをもつて行つて来ます。

僕達の関係について。

僕が、レイタンな気持になりかかつてゐたのは事実のやうです。昨年あたりから、以前からもあつた僕のあなたへの不満が、この前書いたやうな仕事のおせりから大きくなつて来て、それが今年になつてから一層固定的にならうとして来たやうです。その不満の根源は、結局、あなたに対する僕の独占慾に近いもの、主我的な結合要求が満足させられないと云ふ点にあります。僕は我がまゝになつたのです。そして僕の我がまゝは、自分の仕事の意義の確信と、それに対する時代の障害の急増との中で、従来の我々の結婚の倫理たる完全なる対等、個別の自由の尊重等をあきたらないものと思ふまでになつたのです。

僕がアンナに感激したのは、彼女の「完全な結合」への飽くことのない欲求です。僕もまた、あなたとの結婚以来、いや結婚前から、同じやうな欲求を持つて来てゐます。所が、それはアンナの場合とちがつて僕の場合は「我がまゝ」と交錯する。それをあなたの倫理は、そして僕の倫理もまた、排撃する。だから僕はいつでも欲求が充されぬ感じをどこかに持つたまゝ（肉体的なそれも含めて）、しかも自分の欲求を自分達の倫理でいためつけ、叱りつけながら来てゐたのです。僕の我がまゝはうんと強いので、それをがまんするだけでも、僕としては可成りな努力なのです。僕の性来がさう云ふ我がまゝと自己中心とに深く貫かれてゐるのです。しかもその自己中心の中にまた僕の人としての生活の原動力もありさうなのです。だから我がまゝをおさへることは生活の原動力をおさへることに成り、そこからあせりが来て君を、そして僕をも悩ますのではないかしら。要するに聖人でない人間が、聖人たらうと懸命になつて来た形です。所がなか／＼うまく行かない。そこへ外的な諸条件が僕のおせりを決定的にした。自分の道德的完成（之は青年時代は大

きな魅力ですが」と云ふことよりも、もつと大きな創造的な生活への欲求も生長した点もあります。僕の理想では、自分の道徳的自己完成と、創造的生活との真の統一を期したのですが、それは実に困難で、さうする中に創造的生活（仕事）がより重大になつて、道徳的自己完成を後者に従属させなくなつたのです。あつさり云へば、自分の仕事に、自分の他の生活及び妻たるあなたの生活をも従属させなくなつたのです。之が性来の我が儘と一緒にになりました。あせらざるを得ない外的事情は、ゆつくりと自分の我が儘と創造的欲求とを区別し、前者を一々叩きつぶすと云ふ風な生活を許さない。しかもあなたに対しては、僕は自分の我が儘をすつかり手綱ゆるめることは、二人の最初からの結合の倫理がゆるさないし、あなた自身がゆるしてくれない。だから今のやうな一人きりの生活への要求がいつの間にか成長して来たのでせう。

けれど今度信州へ行つて、久しぶりにあなたにあつて、やつぱりあなたのよさをつくづく感じ、あなたの必要さを感じました。あなたが僕のがまをしばらく（仕事が一応出来るまで）許し、僕に思ふ存分のことをさせてくれれば、どんなにいいかと思ひましたが、この頃の僕はうんと神経質になつてゐて、どんな小さいことでも、反対されると神経がいらく／＼するので、ついマスク、ハンケチのことなどもガンバツテしまひましたが、あれはやはり僕が別にしてトランクへ入れるつもりでなしに、いつの間に入れてゐたのでした。こんな調子なので、僕と云ふ人間は今迎もつきあひにくいものになつてゐると思ひます。人とゐるといつてもさう云ふことを感じて、ます／＼自分で不快になります。仕事が出来てゐる時だけ、さう云ふ不快なしにすごせるのです。

僕はとにかく、うそいつはりなしに、あなたを欲求してゐます。実さい泣きたいくらいにさうなんです。だがその欲求のしかたは我がままに、神経的に、あなたには耐えることの出来ないやうなものになるのです。もう少し僕も修練して道徳的自己完成と創造的生活との統一に努力し、さうしてあなたと本当の生活に入りたいと思ひます。あなたが僕の望むやうな、そしてあなたとしてもより真実な勉強の方法について理解されたことを誇張なくうれしく思ひます。僕の初校が終わつたら、原稿を送りますから読んで下さい。僕を書くものは、誰よりもあなたに読んでもらひ、理解してもらひたいと云ふ僕の熱求は、あなたもわかかつてくれるでせう。

では又落ちついてから書きます。大急ぎで書いたので支離メツレツですが御許し下さい。

幸子から謙一あて（一九四四年七月二四日の記、二五日の消印）

昨夜（廿三日夜）はあなたの事を考へるとドキンとする程、不安を感じて、中々ねむれませんでした。一口に言ふと、何とも云へぬ将来への不安と絶望感で奈落へでも落ちてゆく様に恐ろしい不安と孤独感で、ロク／＼ねむれませんでした。

今朝は其のため早苗ちゃんに「メーメオバちゃん、ドハンよ」と起されるまでね坊をしてしまひました。睡眠不足でだるくてたまらない様な気持でのそのそと起きましたが、起きたらすつかり元気が出て、何時もの如く、さつさと日課にかかる事が出来ました。あれは矢張り、夜のせいで、あんな風に何事も悲感的に考へてしまつたのかなアと、軽く片つけてしまつてゐました。

今日は貴方が来て以来さぼつてゐた時間割を忠実に守つて勉強始めました。今日は月曜日ですから波多野さんの日で、さぼつた分を含めて三時間に渡つて勉強しました。どうにも一個所わからないところがあります。書くときゴテ／＼長くなつて、要領を得ない質問になり相だし、ま、困りました。

夕方陽が落ちてから又、例の如くお庭の草取りを二時間近くも致しました。私は草取りは好きらしい。だまつて草をむしつてゐると、気持が静かに統一されて来る様で、これと云つて集中して何かを考へたり追求する程にはなりません。何となく落ちついて来て、そよ／＼吹く風や遠い話を、チラ／＼小耳にし乍らぼーッとしてゐる状態はとてもいいき持に思へます。さうしてゐると昨夜の事が自然浮んで来ました。思つたまゝをあとさきつけずに書くこと次の様な風になります。

若しもあなたがこちらに来て一諸（註）に生活しない前に、現在のまゝの生活から応召になつたとしたら、一其の後の自分の生活を考へると、味気ないとも何とも云ひ様のない恐ろしさを感じる。此の半年、あなたはどうも感情的にピツタリせぬ考へ方がいけないと小言を言ひ、其のほては病氣と疎解（註）で別々の生活を強行した。それでもまだ、自分は何も何の実のところは感じてゐなかつた。一いくらか感じてゐたかも知れないが。

こちらに来て、始めて別々の生活の淋しさや、今までどんなに自分は貴方に云ひたい放だいを云つてゐたかも知れないが、一其の実どれ程貴方を頼りにしてゐたかわからなかつた事を知つた。さうして精神的飢餓感を切実に感じた。此

度あなたがこちらに来ると云つて来た時、どんなにうれしかつた事か。若しも突発的事件でもあつて来られないなんて事のない様に祈つてゐた。さうしてあなたは約束通りやつて来た。二人つきりではないから、思ふ様に話し合へなかつたとしてもどんなに短い時間であつても、あなたに逢ひさへすれば此の飢餓感^①は満足させられるものと期待してゐたのに、一びつたりしないもの、後味のわるい不安が残つてしまつた。と云ふよりも、あなたは變つてしまつた！ と云ふ気持ちを刻一刻感じずにはゐられなかつた。私もあなたをどんなに大切に思つてゐるか、どんなに信頼してゐることか、どんなに必要としてゐるか！ さうしてあなたもさうである”と思つてゐたのに、もうあなたはさうではないのだ！ と云ふ感じがした。アララギ峠へ行く時も帰りのバスの中でも私は其の事ばかり考へて、”もうあの人は私がいらぬんだ！”と云ふ事が、頭の中でガン／＼する程大きくなつてゐたのです。

”此の人は私に逢ふ事よりも本を探しに、さうして本をどんな風になつてゐるか見に来たのだ” 今までの足かけ八年間の二人の生活に、どんなに喧嘩したつてこんな事は一度もなかつた。こんな不安な後味の残つた事はなかつた” 私にとつては、私達の愛情には自信があつたのだ！” ”もう今は自信がない。あの人はもう私を愛してもゐないし信じてもゐない。必要とも思つてゐない。”

そんな事を考へてゐたのです。さうしてあなたの帰る日までに何とか聞いたり話したり、私の安心の行く様な返事を聞き度いものだとあせりました。さうして私は実に下手に聞いて、風のように頼りないあなたの返事を聞いたのです。それが私をかうも不安にし、どうかした時は昨夜の様にねむれなくなつて、淋しさと不安で涙をこぼしてしまふ事になつたのです。私があるあなたを今までのどんな時よりもとても必要に感じ、大切に思ひ、愛情が深まつた時には、あなたはもう私を必要としなくなつた！ 私の悲しさ、もどかしさ、不安、孤独感、絶望感を、どうぞ知つて戴きたい。

では何があなたの愛情を消させてしまつたのか。私の口うるさい事、わがまゝ、病氣、仕事に対する無理解ですか。それなら——。又は戦争のせい^②か、短い時間と切端詰^③つた勉強と仕事^④が、それ以前の物への関心をうばつたのか？ 女手のない家庭生活の日常茶飯^⑤時的雑用の繁雑さが、それに対する腹立ちが、無意識的に私に集中されたためか。さうして始めての別居生活がそれ等に拍車をかけて、私を必要とさせなくなつたのか？ 何があなたの愛情を、かうも変へさせたのでせう。私はそれが知り度い。知り度い。此のまゝ永久に解決出来ずにしまふかも知れぬと云ふ事が、私は不安で恐ろしいのです。

以前の様に二人の間柄が何のくもりも影もなく信じ合つてゐられた時なら、戦争と云ふものが二人の生活を切り離して

しまはうとも、心によりどころも自信もあるから不安はなかつたと思ふ。あなたの身が心配であり、淋しくはあつてもがん張つて勉強してゆける。だが、今は!

これは私の思ひすごしかしら。さうあつてくれたらどんなにうれしい事です。私は夜、淋しさに耐へかねてプロシオンをよみました。さうして中島さんの事を思ひ、あの方がゐたならと思はずにはゐられません。一切私がわるいのだとしても、あの方は私に力をつけ、元氣を与へてくれると思ひます。もう十一時になりました。ごきげんよく、おやすみなさい。

幸子

謙一から幸子あて（一九四四年七月二七日の記）

七月廿七日午前八時半。

経堂へ移り住んで二日目の朝、さつき一しきり降つたけれど今は日が照つて、せみの声もさわやかです。今、朝食がすみました。ジャガ芋三個、いり豆（大豆）少しばかり、なすの油いため、トマト、これで腹一杯。夕食分までもう出てゐます。同じものですが。昨夜まで二、三日と云ふもの火を使へないのでパンとトマトを三食三食続けましたが、そのパンもなくなり、今朝は小使さんに火をかりました。昨日届いた白すぼしと梅干、どうも有難う。火を使はなくてすむ食糧は殊に有難いです。

廿三日の予定の狂つたことは書きましたね。今から思ふとあの日運送屋が来なくてよかつたとも想ひます（洋服ダンスその他の大塚行きは別として）。廿四日一杯と廿五日の朝、下の八百屋さん（内藤一男）からリヤカー一台、荷車一台（リヤカー二台）をさしまわされるまでの時間、小物の整理に忙殺されて、お勝手道具の主なものやくつ、防空資材、その他の小物が辛うじて積み込みに間に合つた次第でした。何しろ数日前から階下の六畳と三畳とは足のふみ場もない程三人の荷物で一ぱいで、毎日運送屋が来さうで来ないものだから整理もつかず雑然と積み込み待機の形でゐたのです。利ちゃんが中々よく働いてくれて九時半頃荷車が原宿を出発しました。積み込んだものの大略は、鏡、テーブル、書棚、四（組立式大三、中一）、本箱八（大四、小四）、ふとん包、行李三（大二、小一）、トランク二（大一、小一）、冷蔵庫、食器棚、炭箱、火鉢、茶わん類のは入つた箱二つ、雑品のつまつた米びつ、オヒツ二、こたつ、足台、食糧品のは入つた非常ぶくろ、くつ下駄雨具、防空用のシヤベルその他、上敷六畳、スタレ四枚、暗幕四枚、ベニヤ板、旗竿、厨芥桶

やバケツ、洗ひ桶、スノコ、など。全体で約百六、七十貫と云ふ見当。

それでもあとに雑書類、紙類、食器(コップなど)、あきかん、花瓶、あきびん、ラジオ、レコード、スタンド等々、階下六畳の押入の上段殆ど一杯ぐらゐの分量が残り、外に鉄道便で送る筈の本箱三つ、大机、引出しと椅子(足なし)、また鉄道小荷物にした十三個の書物衣類の包も残りました。利ちゃんも出たあと(ひろちゃんも朝から吉祥寺へ行つた)一人でそれらを正午まで整理しましたが、六年余の生活の想ひ出と結ばれた家をたむことに、この急をつける戦時下、人間や物の別離、裂断が日常事と化して久しい殺伐な決戦下にも拘らず、やつぱり切ない忍びない感に囚はれて、一つ一つの物にもさまざまな想ひ出が呼び起され、しかも六年間をこの家に共にくらしただあなた、同じ想ひを頒つてくれるべきあなたも、プシットもゐないことに一層センチにされ、早朝からのほこりまみれ汗まみれの労苦にすかした腹を、味なしのパンをむしやく／＼つめこむことでごまかしながら、我にもあらず涙もこぼれました。そんな風で中々小物の整理がつかないままに、運送屋が経堂へもうそろ／＼つくかもしれないと、おひるすぎ、舌切雀の慾張り婆さんほど風呂敷づつみやかばんにつめこんだ荷物をもつて、暑いさなかを足を引ずりつつ経堂まで辿りつきましたが、運送屋が到着したのは実に三時半。六時間ばかりかかったのです。二人とも汗しぼるが如く、ゆでだこのやうにまつかになつて、一息いれないと下すことも出来ぬほどでした。

僕の帰京以来連日雨で(夕立やら梅雨のやうなびしょ／＼雨やら)、この日だけ幸ひお天気だったので恵まれたと思つてゐたが、その代り暑さはひとしほで、全く運送屋さんにも御苦労でした。運賃五十円(之は調査会払ひ)。

大して休む間もなく、下された荷物を二階へはこぶのにもう一汗も二汗かかねばなりません。此の日は丁度、男の同僚はすべて本室へ行つて、女の子達は小物の運ぶのに手伝つてくれましたが、四時半頃に局長が分室へ来ると電話がかかつたので、それまでに一応おさめられるだけおさめようと大ふん斗(闘)甲斐あつて局長が来た時は、すつかり二階へはこび終り、ひげこそ二、三日剃らないのでうすぎたなかつたが顔も洗つてシャツもかへて、局長を迎へることが出来ました。

局長のお相手を、余く下手くそにとめて約一時間、送り出してから、女の子にパンとかへる約束で持つて来てもらつた五目めしの弁当をたべ、今夜寐る場所だけつくつて、その昼買ったトマトをふるしき包にして七時頃原宿へとつてかへす。

その日の午後運送屋が来て移つて了つた筈の利ちゃんが、一人でまだ荷物の山の中でラジオをきいてゐました。運送屋

(肉屋) — 肉屋の運送屋、八百屋の運送屋、炭屋の運送屋などいろ／＼あるでせう^(註)が妻君の急病で来られなくなり、明日(廿六日)朝になつたとのこと。利ちやんに手伝つてもらつて、ラジオの半七捕物帖をきき乍ら鉄道小荷物包装に一時間余り。大家さんへは荷物運び出しの終つたあいさつをして、とまと一貫目ばかりをおみやげにし、さいとうさんへ町会費を渡し、九時すぎにまたもふろしき包で腕や肩をきしませつつ経堂へかへる。ひろちやんは中々いろんな事で今夜も高円寺へとまるとのこと、利ちやんは再びふとん包みからふとんを出して、ガランドウの一階で寐たのです。僕も経堂で初めての夢をむすぶためには、帰つてから余り音のしないやうに(小使さんの安眠を尊長して)いろんな物をおさめ本棚と本だけのこして応急の処置を完成したのが十一時半。さうして寐しましたが、相かはらず転宅の荷物と悪戦苦斗の夢を見ました。

廿六日は五時半に起きて、昨夜につづいて片づけをやり、次に難物の書棚の組立てに朝から汗をしばり、掃除を終つたのが九時半近く。同僚の出動間ぎわでした。それから丸パン二つとトマト二つの朝食をとり、間もなくあなたからの小包が来て、早速白すばしを食べ、雨がやまないので、十一時頃レインコートとコモリとで、ビールびんなどを持つて原宿へ。

渋谷の東京パンでびつくりする程貧弱な定食をたべ(原価二十銭足らずぐらいだのに、金八十五銭也)ました。三河屋でビールを買ひました。二人ともゐない家には利ちやんの荷物はなかつたが、ひろちやんのが三畳一杯にあり、六畳も利ちやんの荷の出たあと、相かはらず足のふみ場もないランゴクぶりで、とにかく少しづつ整理し、紙類は防空壕で焼きました。

ひろちやんは三時すぎに帰つて来ました。雨で、吉祥寺まで遠すぎるからと運送屋にことわられ、結局廿七日の朝になるとのこと。リヤカー一台で行くかどうかを大分気に病んでゐたが、可哀さうでも僕には自分のこと一杯で、彼自身に任せるより仕方がない。五時半頃、もうとづくに雨がやんでゐたので、小荷物二つをさげて原宿駅へ行く途中、下の八百屋に寄つて昨日の礼をのべ、鉄道便の荷造りをたのんで廿八日夕方と日時をきめました、丁度今リヤカーがあいてゐるからと(彼は疎開荷物の荷造中)貸してくれたので、鉄道小荷物十三個はおかけですつかりすみしました。

経堂へ帰ると風のない夜で、レコードやビール、醤油ビン、まな板、タンブラン等々ほぼ三貫五百(駅ではかつたら)の荷物を下げて帰つたその大汗を中々おさめることが出来ませんでした。

小使さんには買物その他をたのむから、よろしくと金十円也をムリヤリに受取らせました。

例によつて火を起すのが面^{めん}作^{さく}で、トマトとパンと白すぼしの夕食をとり、タオル、くつ下、シャツをセンタクして、はめ込みの引出へ整理して入れ（引出が多いので大助かりです）、森ちやんと佐藤君とにハガキを書きました。

そこへひろちやんから電話がかかつて、辻岡さんが二階の四畳半へおいてやると云つてくれるがどうしませうと云ふので、渡りに船と、お願ひしなさいと云つて、これでさしもの大転宅も一まづ大団円となつたわけなのです。

今日廿七日、おひる頃からまた原宿へ行つて、あと片づけと大掃除とをやつて来ます。朝雨だったし、今も雲の様子はさらつとしないが、まづ降^{くだ}つてゐないから出るのに楽です。

今日はビール二本と米一升とかへる約束が出来ました。利ちやんが外食^{がいしょく}巻^まを廿八日まででもらへない（町会によるのです）ので、八合だけ持たせて、之が今度の僕の配給から引かれますが、今日の交換約束でそれも補へることになりました。以上が引越しの報告です。

お母さん、不二ちゃん、御病気がかかですか。どうか御大事に。あなたも御注意下さい。僕は人が僕のひげだらけ汗だらけの青い顔を見て心配してくれる割に、シンが丈夫らしくて、腕や肩のいたみ以外は故障ありません。之であと原稿にまた二、三日テツヤせねばなりません。先づ今年ほど身体を酷使^{こくし}したことはないが、之で立派に健康を恢復したのでせう。さう云ふ所へ召集が来て、行つて了ふことになるのかも知れませんが、あなたの昔くれた犬と、昔の斜めうつつ向いたあなたの写真とがそばにあります。その中、いい写真をとつて送つて下さい。では又。

謙一

幸子から謙一あて（一九四四年七月二七日の記・消印）

昨日（廿六日）、あなたがチッキで送つてよこした私の昔の手紙（9年前の）を一本／＼日附順に一日かかつて読み返しました。忘れてしまつてゐた新井宿の生活を思い出し、誠に感慨無量でありました。今の私の生活と、何と云ふ相違^{さむだひ}でせう。浮調子^{うきぢょうし}乍ら、強い生活力にあふれてゐたし、生んと若^{わか}さにみちてゐたあのころ。性格のケツカンも精神の貧弱さも意識^{いしぎ}してゐなかつたが、明るさと元氣に充ちてゐる。毛虫のからむ蔦の窓、コニイ夫人、ウクレレ、コーヒール、仕事、多忙^{たひやう}、お菓子。

うすつぺらなおシャベリに充ちてはゐるが張り切つて自信があつた。生活する事は楽しさにあふれてゐた。若くて純粹であつた、あのころのあなたに対して傾けた熱情、それを不道德と思つて、ひたすら押へて書いてゐる気持は、行間に

あふれる。読んであとの深い／＼淋しさ。9年前に、9年後、このような心持で、此の様な手紙を書く日があるとは、私にもあなたにも全く思ひもよらぬ事でした。

何とも云へない裏苦しいユウウツから逃れられるかも知れぬと、手紙を書き始めました。此の一週間、絵も、歌も、勉強も一寸も心を慰めない。唯、気が沈んでゆくばかり。今日は其の絶頂にあるよう。あなたは今、何を、何処でしてゐるかしら。経堂の露台で夕食の支度かしら。その姿を想像すると、我にもあらず涙が出て来ます。私はあなたを失ひかかつてゐる。それなのに、私を振り捨てるあなたの不自由を思つて悲しむのです。凡て、そんなものでせう。後悔は先に立、ずとはよく云つたもの。あなたは、私を振り捨てようと努力した。さうして今はもう努力なしに、それが出来る。何故、私は、あなたを失つたのでせう。利己的。自己中心。思ひやりのなさ。やさしさの不足。—あなたの幻滅、失望、腹立、嫌悪、かう云ふ形で進んで来たのです。

やさしさ！ 私はきつと死ぬまで（九十九才まで永生きしても）やさしい、と人に云はれないでせうね。とるに足らぬ自己を捨てられないから、やさしさ、献身、思ひやりが生れないのです。人も陽気で、自分も陽気の時、やさしさも献身も必要ないでせうが、今のあなたにはそれが一番必要であるのに、私にはそれが全くない。

あなたが私を嫌ふに至つたのは、当然だつたのです。当然なら、どうぞ、うんと／＼嫌つて下さい。手紙で生はんかの慰めはいりません。私は今まで徹底的に人からつ□^{痛考}なされた事は一度もありません。何時も何処かに逃げ場がありました。つづばなされて本当に苦しい思ひをして見て、自己を捨てる事が出来るかも知れません。今の私は原宿時代の様に職業を持つてゐず、掃除も炊事も全責任がありません。時間はたつぷりあるし、身体は疲れてはゐないためか、今なら、あなたの望んだ様に家庭のわずらはしさを一切あなたにかけず、仕事に専心させてあげられる自信があります。あなたの云ふ通りの勉強もし、家も整頓し、食事も身をいれてこしらへ、センタクも不平を云つたり、恩に着せずにやめます。私がやつた、私が何した、と一、一、計算せずにつくす気持になれます。併し、もう、其の時はすぎ去つたのです。今となつては、あなたは、そんな事はどうでもいい状態なんです。そんな事は神経にもさはらず、一人ののう／＼の生活に楽しみを見出したんです。

あなたは経堂に引越す事にきまると、九月末ころまでに疎解^解するときめてゐた気持がなくなつた。一諸^諸に上京して移転の手伝ひをすると云つた事にも、原宿□方の挨拶其の他のうるさい事を云つて断つた。分室なぞへ私が訪ねるのは、勿論迷惑さうであつた。経堂ゆきは、あなたの理想を完全にはたしたのですね。